



## 「福澤育林友の会」ニュース

第27号 発行日2015年1月10日

福澤育林友の会  
東京都港区三田2-15-45 慶應義塾 管財部  
TEL:03-5427-1050 FAX:03-5427-1190  
<http://www.f-ikurin.jp>



「年頭にあたって」

福澤育林友の会  
会長 渡部 直樹  
(慶應義塾常任理事)



2015年を迎えるに当たり、新年のお祝いを申し上げます。

昨年中は、南三陸志津川の森の山小屋建設へのご支援をはじめとして、福澤育林友の会の皆様には、慶應義塾の環境教育・研究に多大なご協力を賜りました。心よりお礼申し上げます。

国連食糧農業機関(FAO)の2012年の資料によれば、わが国の森林率(国土面積における森林面積の割合)は、世界15位の68.57%であり、先進国ではフィンランド、スウェーデンに次ぐ第3位の位置を占めています。わが国は、多くの資源を外国に頼っていますが、木材資源に関しては有数の資源大国となります。わが国の美しい自然、ならびにそこから得られる海や山のめぐみを思い浮かべれば、このことは、容易に理解できます。私たちの日常の習慣、伝統的な文化、独特な自然観やものの見方も、この豊かな森林があったからこそ育まれてきたといえるのかもしれない。

わが国の森林の約4割は、人工林(育生林)です。これは育林会や林業三田会の皆様からいつもお教えいただいていることですが、人工林は植栽してから、下草刈り、間伐、枝打ちといった人手をかけてはじめて維持・伐採(収穫)できるものなのです。もしこの過程がうまく進まなければ、山は荒れて保水力も少なくなり、災害の元ともなりかねません。

現在、わが国の豊かな森林資源を有効に利用しようとする動きが活発になっております。国産材を使った住宅・公共建造物の建築からバイオマス発電まで、その用途については多くの可能性が示されています。このように森林資源には、明るい未来が開かれていますが、これらを実現するための課題も多いと思われます。法律を含めたインフラの整備から始まり、事業化のためにはいくつものハードルをクリアしなければならないでしょう。

また、環境というものは微妙なバランスの上に成り立っています。私たちの(良かれと思った)行為が意図せざる結果(悪影響)を環境に与えるのかもしれない。これを回避するには、「森を愛する人々」の視点から慎重に進めることこそが肝要と考えます。

世界的違法伐採等により日本の面積の約3分の1に相当する森林が毎年減少しています。日本は世界有数の木材輸入国であり世界の森林資源消失や劣化と無関係ではありません。国内の森林資源も材木価格の低迷から林業に対する意欲が薄れ、次第に森林に手入れをする人が少なくなり、不健全な森が目立ち始めています。



東日本大震災からの復興に取り組んでいる南三陸町は環境と調和した資源循環型の町を目指していることもあり、「慶應の森・志津川山林」64haは地元高橋長偉さんの所有山林160haと(株)佐久管理の山林270haと共同でFSC認証取得を平成27年9月目標に取り組むことになりました。FSC認証は木材を生産している森林が健全かどうか、正しく管理されているか、働く人たちの暮らしが守られているか等世界的基準で審査し、環境的、社会的、経済的に責任ある森林管理がなされていることを認証する制度です。また、地元製材所「丸平木材」、さらには建築会社「タカコウハウス」が、認証された森林から生産された木材を加工流通のCOC認証を同時取得する方向で進んでいます。認証材を利用することで消費者は環境や生物多様性、地域社会・経済を守ることが出来ます。

慶應の森・志津川山林のある宮城県南三陸町は行政界が分水嶺に囲まれ、町内に降った雨が8本の川を通して全て志津川湾に注いでいます。牡蠣やホタテ、銀鮭等、養殖漁業の盛んな志津川湾は南三陸町の森林の恵によって育まれています。イヌワシを頂点とする生態系を健全に維持しつつ、南三陸の森林から優れた南三陸杉を提供していきます。森林の恵を活用しつつ海を豊にしていける循環型の地域づくりに貢献していきます。

【FSCジャパンHPより抜粋】 <https://jp.fsc.org/>



## 南三陸町内で 熊



## 南三陸町内で「熊」が確認されました

町内戸倉西戸地区（切管木仮設住宅地から南西方向約2.5キロメートルの山林内）に慶應義塾大学様により設置されていた定点カメラの動画記録に、11月19日の夜、大型の熊が撮影されていたことを確認しました。

熊の存在に関しては、今年に入り、志津川新井田地区や戸倉津の宮地区で目撃したという情報も寄せられ、また、歌津伊里前地区においては熊の糞らしきものが見つかるなどもしています。

山に入っている作業などの際は、十分に注意してください。

【南三陸町HPより抜粋】 <http://www.town.minamisanriku.miyagi.jp/index.cfm/7,6545,34,321,html>

## 第13回「森を愛する人々の集い」

平成26年9月6日(土) 開催

平成26年度はシンポジウムと研修旅行の日程を交代して、平成26年9月6日(土)に慶應義塾大学三田キャンパスにて第13回「森を愛する人々の集い」を開催いたしました。

今回のシンポジウムは、「里山資本主義における森と人々の関係」をテーマに、日本総合研究所主席研究員(地域エコノミスト)の藻谷浩介(もたにこうすけ)氏にご講演いただきました。申込みの段階よりかなり大きい反響があり、100名を超える参加者で大盛況の講演会となりました。



講演者・藻谷氏



**“里山資本主義”とは何か？**

「マネー資本主義」の欠陥を補うシステム (要諦)  
 ← お金を使わない経済も重視 地域内循環を重視

！ 里山や自然に眼を、金銭操縦すると無価値の資源  
 1 耕作放棄地 2 立木 3 半減モノ/農産品 4 遊歩道 5 野原

！ でもそれを資本として活かすと、水、食料、燃料  
 1 αを自給・物々交換できる (山間部では実現できず)  
 2 食糧・エネルギーの自給率向上で、外に出て行くお金が減る  
 3 物々交換で財が保たれる 4 自給・自産 5 夫に強い地域となる

！ 無価値の資源を資本として活かすと、工次次第で外から  
 もっとお金を呼び、そのお金を地域内で回せる  
 6 エコウィーとして観光客が増える 7 地産地消 8 地元民と観光客が 共有地産を消費することで、観光客が地域内で回る  
 9 地元産自然エネルギーを統合に高める 10 若者の雇用が増える

**里山資本主義・田舎の3つの逆転**

**2. 山林が室の山に変わる大逆転**

× 20世紀：建物は鉄筋コンクリートか新建材フルハフ  
 ○ 21世紀：集成材を使った木造近代建築の時代

→ 豊かになるまで、木材は「資源」であり、生成は採伐が前提  
 → 採伐には了らねばならない採伐の計画と高層建築の増加中  
 → 地元産集成材の時代は、木材も資源として採伐される  
 → 集成材の副産物である木屑や、1つを資源とする、釘も1つ回収し戻すという「閉じた」循環の構築が求められる

ただし問題は、日本の施主がほとんど木造建築の技術革新に気づいておらず、集成材が使われず、木屑も発生しないので、発電もできないこと。



司会者・速水氏



挨拶・渡部会長

## 福澤育林友の会への入会にあたり

宗 あさひ

(慶應義塾大学看護医療学部1年・應援指導部吹奏楽団)

こんにちは。この度、福澤育林友の会に新会員として入会させて頂く、慶應義塾大学看護医療学部1年の宗あさひと申します。

今回入会させて頂くにあたり、私の植林の経験について少しお話しさせて頂きます。私は幼稚舎生だった頃、4年生から6年生までの毎年3月に行われる修善寺『幼稚舎の杜植林』に参加しました。

また、卒業後も中学1年の時に福澤育林友の会の方と一緒に植林に参加させて頂きました。初めて植林に参加してからもうすぐ9年です。あの時、友人と一緒に植えた直径1cmほどの小さくて細い苗木は、とれほど大きな木になったのか、いつか自分が植えた木を見るのをとても楽しみにしています。



2006年3月11日幼稚舎の杜植林

初めて植林に行った2006年3月。その時に、1999年3月に行われた第1回植林で幼稚舎の先輩方が植えた木を測定しました。私たちが植えたと同じであろうあの小さくて細い苗木が円周40~50cm、高さ2mを超える大きな木に成長していました。成長した木の姿を鮮明に覚えています。



植林活動が温暖化防止や地球環境保全につながることを学び、私は環境問題についてさらに考えるようになりました。森と水資源、サンゴの白化現象、サンゴの保全につながる赤土の流出を防ぐ活動等、いずれを学ぶにも『幼稚舎の杜植林』での体験が基礎となっていました。

湘南藤沢高等部では、環境プロジェクトという有志団体で活動しました。植林をテーマに小学生への環境出前授業も行いました。大学生になり、今はこのような活動からは離れ、應援指導部吹奏楽団に入り活動していますが、環境問題や保全への取り組みへの関心は少しも変わっていません。入会させて頂きましたが、今はまだ、どのように参加できるのか、具体的な参加計画は立っておりませんが、手をこまねいているよりは、できることをやっ行ってこうという意識であります。どうぞ、よろしくお願いいたします。



幼稚舎5年生で参加した植林の2日後には、台風並みの強風が吹きました。植林直後の小さく細いクヌギの苗木が心配でならなかったことが思い出されます。きっと立派に育っていると思います。大きく育った木に再会できる日が今から楽しみです。

今年度の「幼稚舎の杜植林」は、塾長・担当理事も参加して2015年3月14日(土)の予定です。(事務局)